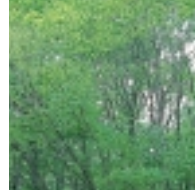


こうふ町 議会だより

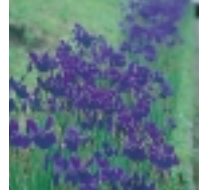
町勢
世帯数／1,141世帯
人口／3,530人
(平成22年7月1日現在)

町の木



ぶな

町の花



あやめ



まちの元気!! (貝田にて)

6月定例会	2 P
いっぱん質問 町政を問う	4 P
150号記念特集 (ふるさとを想う)	6 P
私もひと言	8 P

6月定例会

一般会計

補正後

31億7,631万円に(4,263万円追加)

特別会計 16会計

補正後

17億586万円に(2,700万円追加)



地上デジタル放送 受信支援事業費

地上デジタル放送に対応するための町内10カ所の受信施設改修整備費

2517万円

補正予算の主なもの

平成22年6月定例議会は、14日開会。会期を17日までの4日間と決め、本年度一般会計補正予算案や鳥取県日野地区連携・共同協会の設置の可否を問う16議案を審議し、原案のとおり可決した。

教育費

江府中学校2年生の少人数数学級負担金
(教員人件費)

497万円

地域介護・福祉空間 整備等施設整備費

チロルの里グループホームの消火用
スプリンクラー設置費

292万円

新しく制定された条例

江府町索道事業基金の 制定について

この条例は、江府町索道事業基金の設置及び管理に関する事項を定めることを目的とする。

設置、積立、管理、運用益金、繰替、基金の処分からなる。

この条例は、公布の日から施行する。

その他主なもの

鳥取県日野地区
連携・共同協議
会の設置に関する
協議について

この協議会は、鳥取県並びに日野郡日南町、日野町及び江府町が事務を連携して管理し、及び共同で執行することなどにより、日野郡の区における行政サービスの維持、向上や効率的な行政運営を促進するとともに、日野郡区域に共通する諸課題の解決に寄与することを目的とする。

この規約は、関係団体の長が協議により定めた日から施行する。

第4回 定例会

区分	議案名	補正額 (単位：万円)	補正後 (単位：万円)	審査結果
補正予算	平成22年度一般会計補正予算（第1号）	4,263	317,631	原案可決
	平成22年度国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	126	40,183	原案可決
	平成22年度介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	194	44,542	原案可決
	平成22年度索道事業特別会計補正予算（第1号）	2,305	9,049	原案可決
	平成22年度農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）	75	22,496	原案可決
専決処分	専決処分について（町税条例の一部を改正条例）			承認
	専決処分について（国民健康保険税条例の一部を改正する条例）			承認
	専決処分について（平成21年度一般会計補正予算（第9号）			承認
条例	江府町父子年金等支給条例の廃止について			原案可決
	江府町索道事業基金条例の制定について			原案可決
	江府町職員の育児休業等に関する条例の一部改正について			原案可決
	江府町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正について			原案可決
	江府町山村開発センター設置及び管理に関する条例の一部改正について			原案可決
	江府町簡易水道等施設の設置及び給水に関する条例の一部改正について			原案可決
その他	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について			原案可決
	鳥取県日野地区連携・共同協議会の設置に関する協議について			原案可決

陳情の
審査結果

みなさんから提出のあった陳情を審査した結果、次のとおり決定しました。

年金受給資格期間の25年から10年への短縮を求める陳情

趣旨採択

公契約条例制定等に関する陳情書

趣旨採択

最低賃金法の抜本改正と安定雇用の創出、中小企業支援策の拡充・強化を求める陳情書

趣旨採択

備蓄米買い入れと米価の回復・安定を求める陳情書

趣旨採択

保育制度改革に関する意見書提出を求める陳情書

採択

一般質問

町政ここを問う

一般質問は2人の議員が行い、町長ならびに教育長の方針をただした



日野尾 優

第4次総合計画は

問 計画の取組み状況は

答 評価作業を進め、後期計画に反映させる

質問 平成18年度を起点とし、27年度までの10年間を計画期間と策定し、推進期間を設け、前期5ヶ年について基本構想を具現化するための現状や課題について示すことになっていいる。

町長答弁 本年度は、平成18年度

に策定された「江府町まちづくり計画」の最終年度であり、また、総合計画の見直し時期にあたってあります。そのため、第4次総合計画の後期分の見直し作業に反映させるため、現在各課で「江府町まちづくり計画」の評価作業を進めております。7月中旬までには後期基本計画の概要を取りまとめ、7月下旬から8月上旬に総合計画審議委員会を開催、秋頃には具体的な実施計画を取りまとめ、財政見込みを勘案しながら調整してまいります。

最終的には、来年3月議会に、「第4次総合計画の後期基本計画」を提出させていただきます。予定

人口減少への対策について

問 定住促進は

答 雇用対策等西部市町村で情報を共有し取組む

です。見直し後の、実施計画についても、経済状況や緊急性等を財政推計とも比較しながら各年度ごとに修正を行い、可能な限り地域が元気になる取組みを進めるよう考えてあります。

質問 本町人口は、10年前に比較し約570人減少している。このまま人口減少が進むと、平成30年度には3060人と推計される。

この人口減少により税収減や経済活動、地域社会の縮小をもたらし、町の活力を低下させる。それを阻止するためには、人口増加につながる魅力ある施策をすることです。空き家の活用、婚活支援

事業等を積極的に取組む必要があります。定住促進について町長の所見を伺う。

町長答弁

人口減少への対策、定住促進については、全国的に様々な施策が行われており、定住奨励金などの金銭面での支援策や、住宅対策、子育て対策など多面的に取り組みが行われてあります。

江府町の人口減少の状況としては、特に出生の減少が重要な課題とらえてあります。よって、人口減少・定住対策については、出生の増加が期待できる年齢層の対策が一番の課題であると考えております。この年代への定住としては、江府町からの通勤圏域も含めて雇用確保、子育て環境、住環境、生活環境の整備が考えられます。雇用の確保としては、町内への企業誘致対策はもちろん大切ですが、通勤圏である西部圏域内での誘致と雇用に対する市町

村の情報連携も重要であり、西部市町村長の間では、先般、雇用情報の共有について意見交換したところであり、最近では、米子市に進出した電気自動車工場で今後800人程度の雇用が見込まれており、以前おこなった、コールセンター社員募集情報のように、西部圏域市町村で情報共有が図られるよう努めております。住環境対策としての空き家利用ですが、現在、町民生活課において、空き家調査をおこなっております。今後、地域との調整も含めて解決しなければならぬ課題があります。できる限り有効な活用を図りたいと考えております。結婚問題については、町内の仲人有志のみならず、連携を図りたいとの申し出があり、呼びかけを町報で行ったところであり、民間の皆さんのお力に期待しており、町としては、住みたくなるまちづくりの力を注ぐことが肝要だと考えております。

子育てと小中一貫教育システムを



川上 富夫

問	答
安心子育て保育園・小学校・中学校の一貫教育システムを	子育て支援の充実・小中一貫教育へ連携を充実

質問 これからのまちづくりには、希望をもって江府町に生活基盤を築き、子育てが安心して出来る。小学校・中学校までの一貫した教育システムの構築が、今最も重要と考える。

5月1日現在、未就学児87名・小学生137名・中学生100名である。江府町の人口の1割が15才以下の子ども連である。保育園児を含めた子育て支援の充実を図る必要がある。若い世帯にとって、保育料は経済的負担が大きく、家庭と仕事の

両立は難しく、子育てをもっと支えていく事が必要である。

岡山県西粟倉村の保育と本料金は8千円(月額)(村外居住者は国の基準)

料の軽減・教育の向上について、連携を密にしていかなければならない。町長の所見を伺う。

小学校は昨年4月より江府小学校に統合され、今年の新入生は、22人。中学校においても生徒数は減少の一途である。

ここに来て、義務教育のあり方に変化が生じ、小中一貫した教育を進めている市町村が増え、日南町は統合を機に取組みを進めている。

江府町の将来に人材育成は不可欠である。「小

中一貫教育」は、江府町の地域・企業を巻き込み、国・県・大学等の教育機関との情報交換・交流を進め、連携を密にする事で他にはない教育システムが出来ると考える。例えば、外国語、特に英語力を高め、英会話が出来る教育が江府町の「小中一貫教育」で進められたら、子育て・教育で新しいまちづくりにつながると考える。

町長答弁

保育園については、保育料は国の基準に比べ軽減を図って年間420万円の支援をしています。保育サービスは、昨年度から園児対象で一時保育サービス18名の利用がありました。

今年度から保育園児完全給食を、県西部地区では初めて実施しています。更に今年度は園庭の芝生化を実施し、のびのびと遊べる環境作りを計画し、関係課と連携をとりなが

ら子育て支援を行っていきます。

小中一貫教育は、「共通の目標、指導内容及び指導方法等が、義務教育9年間を貫いて設定され、施設の形態でいろいろありますが、本町は保育園・小学校・中学校それぞれ1園1校ずつです。

学校教育目標が検討され、「たくましい心と体」自立 敬愛 鍛錬ができてあがっています。

本町においては、既に小学校の先生が夏休み等に出かけたり、5歳児健康診断の場にも出かけて教育相談も行ったりと、中学校の授業参観をしながら、連携を図っています。中学校の音楽、美術の先生が小学校に出かけて指導する一貫教育につながる取り組みがなされています。中学校の老朽化、生徒の減少など、環境を調査し、あり方検討委員会、今後の学校運営に活かしていきます。



江府中学校30人学級

150号記念特集

ふるさとを想う

今回150号記念として、江府町出身で県外に活躍されている方からお便りがとどきましたのでご紹介します。



私のこころの伏流水

本二 平野美鈴 (旧福田)

18歳で東京に出てきましたから44年の歳月が流れました。現在は江戸川を渡った千葉県船橋市に居住しています。夫の法律事務所は東京上野にあります。私は千葉家庭裁判所で調停委員、参与員をしています。また日本カウンセリグ学会認定カウンセラーの資格を得て女性の受刑者のカウンセリグをしています。20歳の頃に刑務所を参観して考えていたことが30年近く経って実現したものです。思えば父も、他町の青年団を鏡ヶ成に案内して当時小学生の私と一緒に連れて行ってくれたときに、熊笹の広がる原野の道路脇に流れている冷たい水をすくって「この水は、いい水だぞ」と言っておりました。その水は30年余を経て日本一美味しいといわれる『奥大山の水』となり、いのちの水として被災地の人々も潤しました。弟は「江戸時代の水も飲んでるんだぞ、大事に使わなければいけない」

と言っているようですが、蛇口の水は上流の森林が懐深く受け入れた雪や雨が地下に浸透して伏流水になり、ゆっくりと流れて長い時をかけて地表に湧き出てきた水で、大昔から人々は自然を略奪するのではなく、木を伐っては又植えて育てた汗の労働の結果だといえます。

地下に浸み込んだ水が湧き出ていのちの水になるといふのは非常に象徴的で、人のこころについても同じことがいえると思います。

私は松戸で子ども会等の諸活動を地域の人達と力を合わせて楽しくやってきました。夏は観音様の境内で盆踊り、秋の祭礼には神輿が練り出して盛り上がりです。その折々に思い浮かぶのは、母や近所のおばさん達に手作りのごちそうで子どもの日を祝ってもらった時のことや敬老会の日の祖父母達の様子、十七夜が近づくと街灯り

の下で盆踊りの振りをおばあさん達に習っている情景や飾りの万国旗作り(昔は一枚ずつ手描きでした)、おじさん達の山車作りの活気づいたやりとり、夜店の明りに人の波、腹に響く太鼓の音、撥を持って唄っている曾祖父の浴衣姿、子どもの頃から貝田の十五夜で踊っていたのだから祖父の味のある踊り等々で、ワクワクするようなあるいは何だかうっとりしてしまふような懐かしい気持ちになつていふのです。故郷の人々の姿、人の和、心意気、皆でお年寄りを尊び子どもの成長を喜び合うというような温かく和やかな在り様に見習って同じようなことをやろうとしてるのだと思います。また調停やカウンセリグは人間関係をつなぎ直していくために当事者と一緒に取り組んでいくのですが、気づきや喜びに至るまでは困難な悩ましい課程です。これでもこうして続けているのは、故郷で培ってもらった人々の温かい人間性への信頼と確信を心身に浸み込ませているからだろうと有り難く感謝しております。



自然の豊かなわが郷土(江府町)

奥大山江府町関西交流会 会長 河上 勲

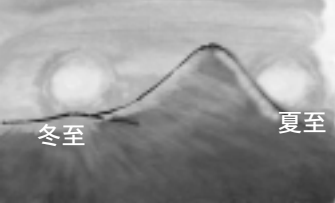
私は昭和38年3月に米子工業高校を卒業して18歳で江府町を後にし兵庫県尼崎市に出て行きました。あれから48年、今は定年になり大阪府枚方市で地域活動に取り組んでいます。

田舎での生活18年のおよそ3倍近くの日々を大阪で過ごしていますが我が心は郷里江府町にあります。最近では「サントリー・奥大山の天然水」のCMに代表されるように自然豊かな江府町は都会暮らしの田舎者ですが大変誇りに思います。都会に住んでいると季節の移り代わりは新聞等で知ることがありますが、体で実感することは非常に少なくなりました。

例えば日の入り時間が一番遅くなる夏至と一番早くなる冬至の時間差、約二時間を私は宮市から久連山に沈む夕日の沈む場所と角度の違いで実感する事が出来ました。

夏至の時は久連山の頂から三十度ほど右側に沈み、冬至の時は頂から左側すぐの位置に沈む太陽が目に見えつつあります。

今の子供達(我が息子・孫も含めて)は一日の始まる日の出の位置と一日に終わり太陽の沈む位置を自分の目で見ることは無いと思います。豊かな自然を残す事は大変な手間と時間のかかる事とは思いますが、いつまでも自慢の出来る豊かな自然であって欲しいと思います。



ふるさとに想いをはせる時

宮市 橋 厚子 (旧河上)

テレビの天気予報になると必ず目がいくところ、生まれ育った頃の原風景が鮮やかに浮かびあがる。郷里を出て50数年が経つその大半を小学校の教育に携わってきた。今時折ふるさとの様子を耳にする機会がある。

大手企業の進出や名水、名産の販売を手がけ新しい観光物産の町として名を広く知らしめていることはうれしき限りである。

過疎の波や働き手が乏しいと言われながら自力で共同体としての産物を生み出した知恵に脱帽しています。

これからも、そこに暮す人々が共同体として心をつなげて知恵を出し合い、与えられた自然を壊すことなくその資源をより多方面に活用し多くの産物を生み出してほしいと願っています。

その産物を手にとるとき懐かしい山々や草花、川の流れ、わき上がる白雲それらが流れ広がる空、そこに暮す明るく闊達な人々の姿が彷彿として浮かび来るのです。

今静かにふるさとに想いをはせる時、暖かく接し、時に厳しく育てて送り出し、喜んで迎えてくださる方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

生まれ育った土地の環境で身につけた暮らしの知恵や生き方は私の長い人生の航路に大きく影響しています。四季の移り変わり、若葉が萌え心が躍動する春、夏の暑さ、凍てつく雪や氷に閉ざされた長い冬、耐えて待つ忍従の精神が身につきました。

今日までの日々を大過なく過ごしてこられたのもふるさとで培われた強い精神力と私のふるさとと言う大きなバックボーンがあったからです。

時の流れが加速している現在、土地に暮す高齢の方々が安心、安全で心安らかな潤いのある日々。子どもが将来に夢や希望を託して過ごせる日々、若者が自信を持って働く活き活きとしたふるさとが長く長く続いていくことを願って筆をおきます。

ひより



江尾 田中 金明

議会だよりの 一ページ

当時の森田 智議長および清水孝司議会議事務局長から江府町議会だよりの題字の記入の依頼を受け早く早くと構図の工夫もなくいきなり筆を取って書きなぐり間に合わせてから、一五〇号を数えていたとは知らずにおりました。

その間編集委員さんの努力で毎号毎号町行財政の各分野に亘り詳細に、町民に知らせる内容を豊富に編集しております。広報特別委員諸兄の努力に対し深く敬意を表し、議会だよりの益々の発展を祈ります。



吉原 清水 要範

わが町への思い

整然とした田圃に、今年も田植が終りました。

一日掛りで行った井手浚えも、1〜2時間で片がつきまも、集落の隅ずみ迄町道が舗装され、冬期間は町費で除雪してもらえます。

水は蛇口をひねれば不自由なく使え、下水道もあと少しで全町完備します。

食料品なども行政の支援で「あいきよう」が献身的に提供し、このことはテレビでも度たび（全国版でも）放映され、注目的になっています。

バスも以前に比べて回数が増、往來が容易になりみんなに喜ばれています。戦中、戦後不自由を経験した私達は本当に有難く思っています。

鳩山さんは母上から毎日、50万円近いお小遣いを貰い乍ら、知らなかつたと仰しゃる。私は幼い頃両親が年末には乏しい財布の中から、必ず下着類と履物を新調してくれました。嬉しくて弟妹と枕元に置いて寝たことを覚えています。有り余る金の中からは差程度嬉しくはなかつたかも知れません。

今、国も地方も財政の逼迫が問題になっています。その中で江府町は、生活基盤の整備に努められ、町民に優しい施策が過ぎつぎ行われていて有難いことです。

一つ欲をいえば、老人会は年に1〜2回の視察研修と、高齢者スポーツ大会が主な行事、その視察が財政難その他で、町から車が借りられなくなりしました。折角保有された車を、運転者の賃金や燃料代を老人会負担位で借していただくようご配慮下されれば喜びます。



議会だよりが一五〇号を迎えた。

第一号がスタートしたのは昭和四十七年で、田中総理、井上町長、清水議長の時代である。

列島ブーム、石油危機、バブル、低成長、政権交代など政治、経済とも激動の三十数年の月日であった。

本町に目を向けると侯野発電、下蚊屋ダム、米子道開通、単町選択、サントリーの進出、小学校統合など、さまざまな出来事が…。

町長も井上、福田、竹内と変わり議会でもいろいろな質問、みんなの声など議会だよりを通して蘇ってくる。

今、江府町の有権者も二千人台になるのが目前である。小さくてもキラリと光るまちづくりのために何をしていくのか、

本当の意味での正念場を迎えている。

厳しい時代であるがゆえに、先人先輩達が歩み残された歴史、実績、あし跡をもう一度見つめなおし、原点に戻る必要を感じる。

家から笑いがあふれ、助け合う心がゆきかう町こそ多くの町民の願う姿である気がする。議会、だよりも一層読みやすく、親しまれ、有意義な情報の発信、元氣発信の場になりたい。そのために一五〇号が新たなスタートになれば喜びである。

田中 幹啓

議会広報調査特別委員会

- 委員長 日野尾 優
- 副委員長 川上 富夫
- 委員 森田 智
- 委員 越峠恵美子
- 委員 田中 幹啓